

(仮称) 磐田市文化会館建設基本計画

平成 29 年 7 月

磐 田 市

はじめに

磐田市民文化会館は昭和 54 年に竣工し、市民にとって様々な文化芸術を身近に鑑賞し体験する場として、また講演会や式典など様々な市民活動の拠点としての役割を担ってきました。しかし、築後 37 年が経過し、施設の空調や給排水設備、舞台の音響や照明設備の老朽化が進み、各設備の部品の調達等も困難であることに加え、ホワイエや客席空間などの観客エリアのバリアフリー化への対応や耐震性能が十分ではなく、これらを改善するためには、大規模な修繕に高額な費用が必要となります。

また、施設内の駐車場不足は長年の課題であり、利用者からも多くの意見が寄せられております。

平成 23 年に策定した磐田市公共施設見直し計画で、改築・再配置の検討の方向性が出されました。平成 26 年度には「文化施設等の将来の方向性」を検討する磐田市文化施設等のあり方に関する検討委員会において、磐田市民文化会館をはじめとする市内の文化施設等のあり方についての提言に基づき、市民文化会館については新たに整備する方針を決定してきました。

平成 27 年度には新しい文化会館について専門的な見地や利用者などの視点から検討を行う「磐田市文化会館建設検討委員会」を立ち上げ、平成 28 年 6 月に（仮称）磐田市文化会館の基本理念及び建設位置について第 1 次答申を受けました。市として十分な検討を行い、「アミューズ豊田南側」の敷地を建設予定地に決定するとともに、（仮称）磐田市文化会館基本構想を策定しました。

平成 29 年 4 月に建設検討委員会から、新しい文化会館における施設の機能や構成及び施設の配置における配慮などの最終答申を受け、磐田市の文化の拠点施設として、「（仮称）磐田市文化会館建設基本計画（案）」を策定いたしました。

さらに、この計画に対する意見を広く市民から募るために、「パブリックコメント」を実施し、その結果を踏まえ、平成 29 年 7 月に「（仮称）磐田市文化会館建設基本計画」を策定しました。

目 次

1章 新しい文化会館の基本コンセプト・基本機能

- 1. 新しい文化会館の基本コンセプト . . . 1
- 2. 上位・関連計画における位置付け . . . 5
- 3. 新しい文化会館の基本機能 . . . 6
- 4. 新しい文化会館の機能構成と活動の繋がり . . . 7

2章 新しい文化会館の施設概要

- 1. 敷地概要 . . . 10
- 2. 施設整備の考え方 . . . 16
- 3. 新しい文化会館の配置計画 . . . 17

3章 新しい文化会館の施設と規模の構成

- 1. 新しい文化会館の施設構成 . . . 19
- 2. 新しい文化会館の各施設概要 . . . 20

4章 新しい文化会館建設のスケジュール

- 1. 新しい文化会館建設までのスケジュール . . . 24

■ 1章 新しい文化会館の基本コンセプト・基本機能

1. 新しい文化会館の基本コンセプト

新しい文化会館は、市民が優れた文化芸術作品に触れることが出来るとともに、様々な活動の拠点施設として、親しみやすく、誰もが気軽に集う場所となることが期待されます。


文化芸術を受け継ぎ、創造し、発信する拠点施設として、(仮称)磐田市文化会館基本構想に示す基本理念を実現するための基本機能を以下のとおり定めま

基本コンセプト


(1) 集まる・・・誰でも気軽に立ち寄ることができ、多くの人が集い交流する場

 『市民の開かれた文化拠点』


(2) 感動する・・・様々な文化芸術に触れ、優れた文化芸術作品に感動する場

 『上演・鑑賞の場としての機能と性能』


(3) 育てる・・・文化芸術を通して人を育てる、人づくりの場

 『多様な活動体験による学びと人づくりの場』

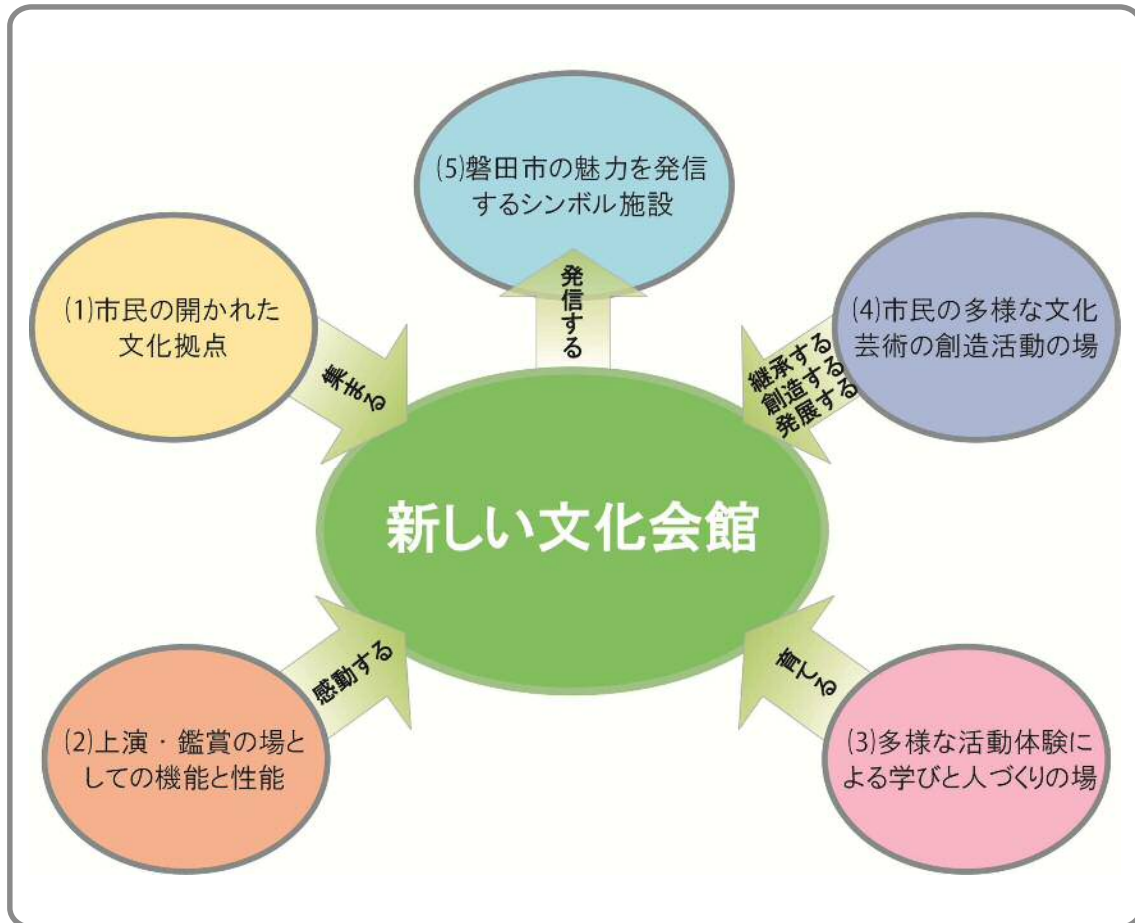
(4) 継承する、創造する、発展する・・・文化芸術を継承し、創造し、発展させる場

 『市民の多様な文化芸術の創造活動の場』

(5) 発信する・・・活動の成果を市内外に発信する場

 『磐田市の魅力を発信するシンボル施設』

【新しい文化会館の基本コンセプト】



(1) 集まる

「市民の開かれた文化拠点」

- 新しい文化会館は、磐田市の顔となり、市民が気軽に立ち寄ることができる開かれた雰囲気づくりを目指していきます。
- 磐田市の文化芸術の拠点となる施設を目指していきます。
- 文化芸術を通じて、文化交流・世代間交流など様々な活動を図り、日常の賑わいを生み出すことを目指します。



(2) 感動する

「上演・鑑賞の場としての機能と性能」

- 新しい文化会館においても、引き続き身近に様々な文化芸術を鑑賞できる機会を提供していきます。
- 座席はどの位置からも舞台が見やすく、くつろいで鑑賞することができ、舞台は様々な演目に対応できる、多機能なものとしていきます。
- 将来を担う子どもたちが、優れた文化芸術に触れ、感動を体験できる機会を提供していきます。



(3) 育てる

「多様な活動体験による学びと人づくりの場」

- 新しい文化会館は、多様な文化芸術活動を支援し、学びの場となることを目指します。
- 将来を担う子どもたちが、文化芸術に親しむ事業や、市民の文化芸術活動をより活性化させるための支援を行います。
- 音楽やダンス等の練習が可能な設備を充実させ、クラブやサークル等の活動を支援していきます。
- アミューズ豊田のスポーツ施設や、ゆやホール、(仮称)子ども図書館、新造形創造館と事業連携を展開し、多くの人に文化芸術に触れる機会を提供します。



(4) 継承する、創造する、発展する

「市民の多様な文化芸術の創造活動の場」

- 文化芸術活動の成果発表や創造活動など、様々な目的に活用できる場とします。
- 多様な文化芸術の創造活動を通じた学びの場となり、文化芸術を継承し、創造し、発展させていく場とします。
- 文化資源を次の世代に継承するとともに、文化芸術の担い手を育て、活発な文化芸術活動を展開していく場とします。



(5) 発信する

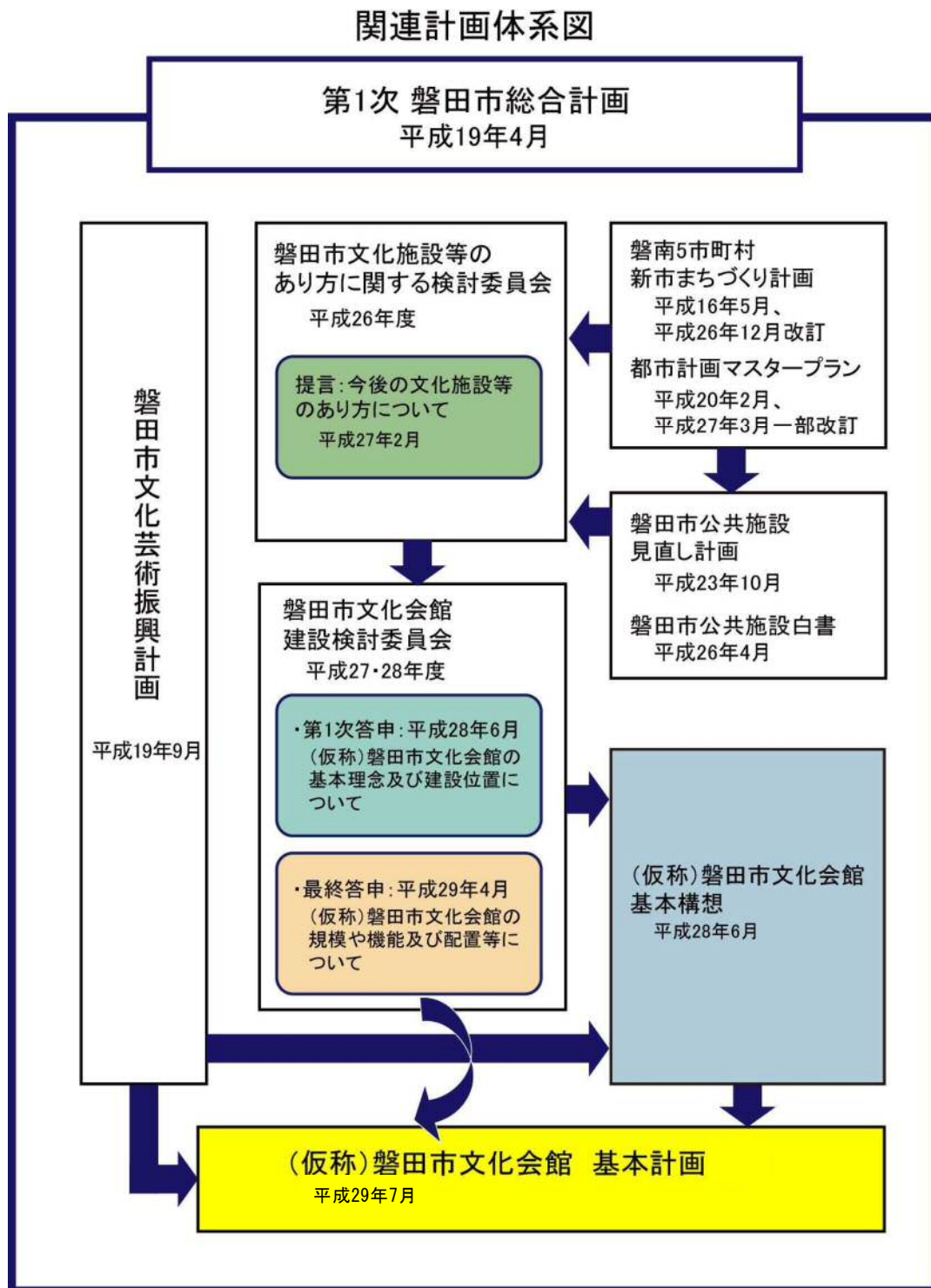
「磐田市の魅力を発信するシンボル施設」

- 継続的な文化芸術活動や、特色ある文化芸術活動を「磐田市の資源」として、広く市内外に発信する施設としていきます。
- 市内や近隣の公演情報をはじめ、文化芸術に関連する情報を広く市民や来館者に提供していきます。
- アミューズ豊田のスポーツ施設や、ゆやホール、(仮称)子ども図書館、新造形創造館などの近隣施設との共催事業活動による連携を積極的に進め、磐田市の魅力を発信する拠点施設を目指していきます。



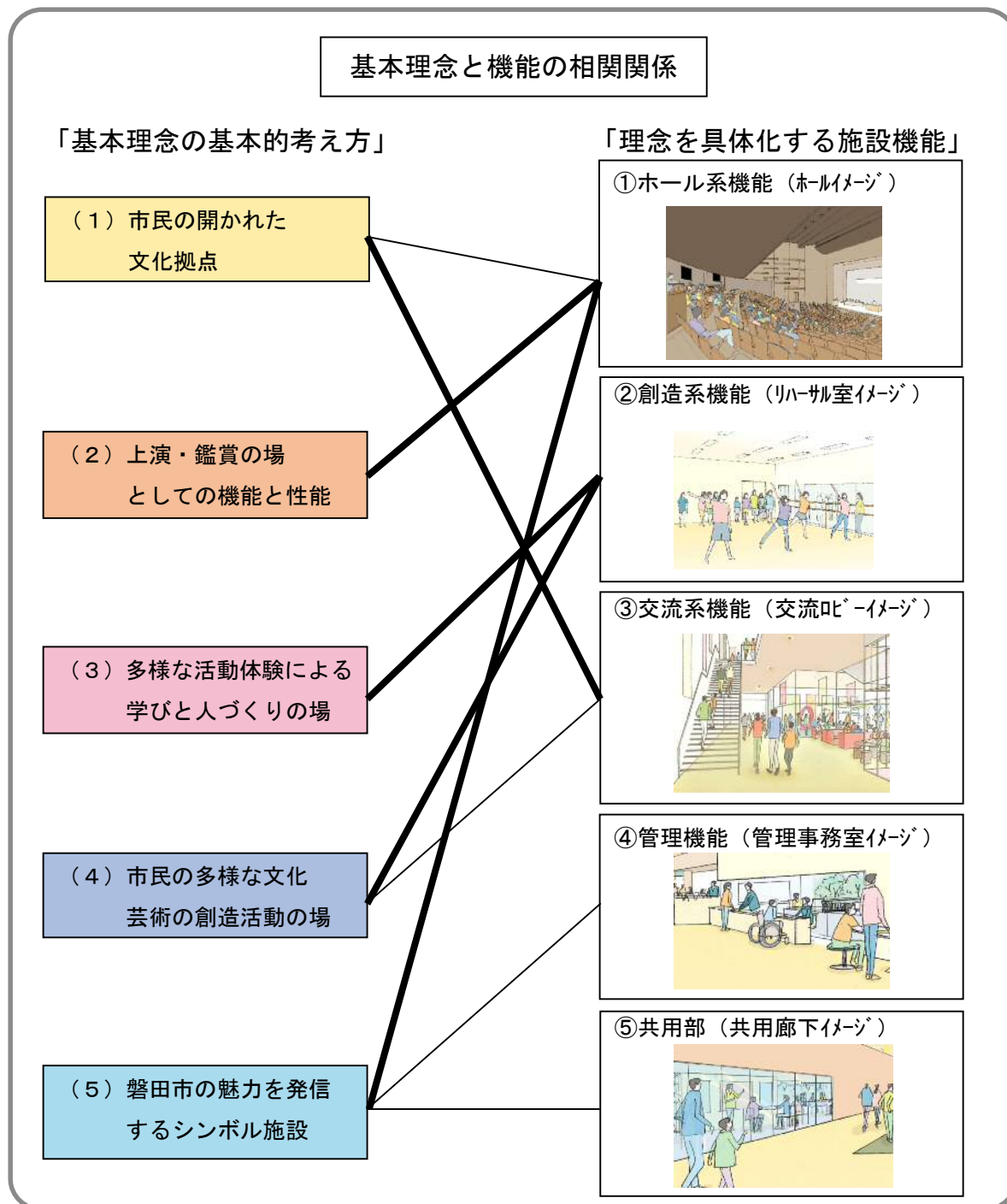
2. 上位・関連計画における位置付け

(仮称) 磐田市文化会館基本計画の位置付けは次の通りです。



3. 新しい文化会館の基本機能

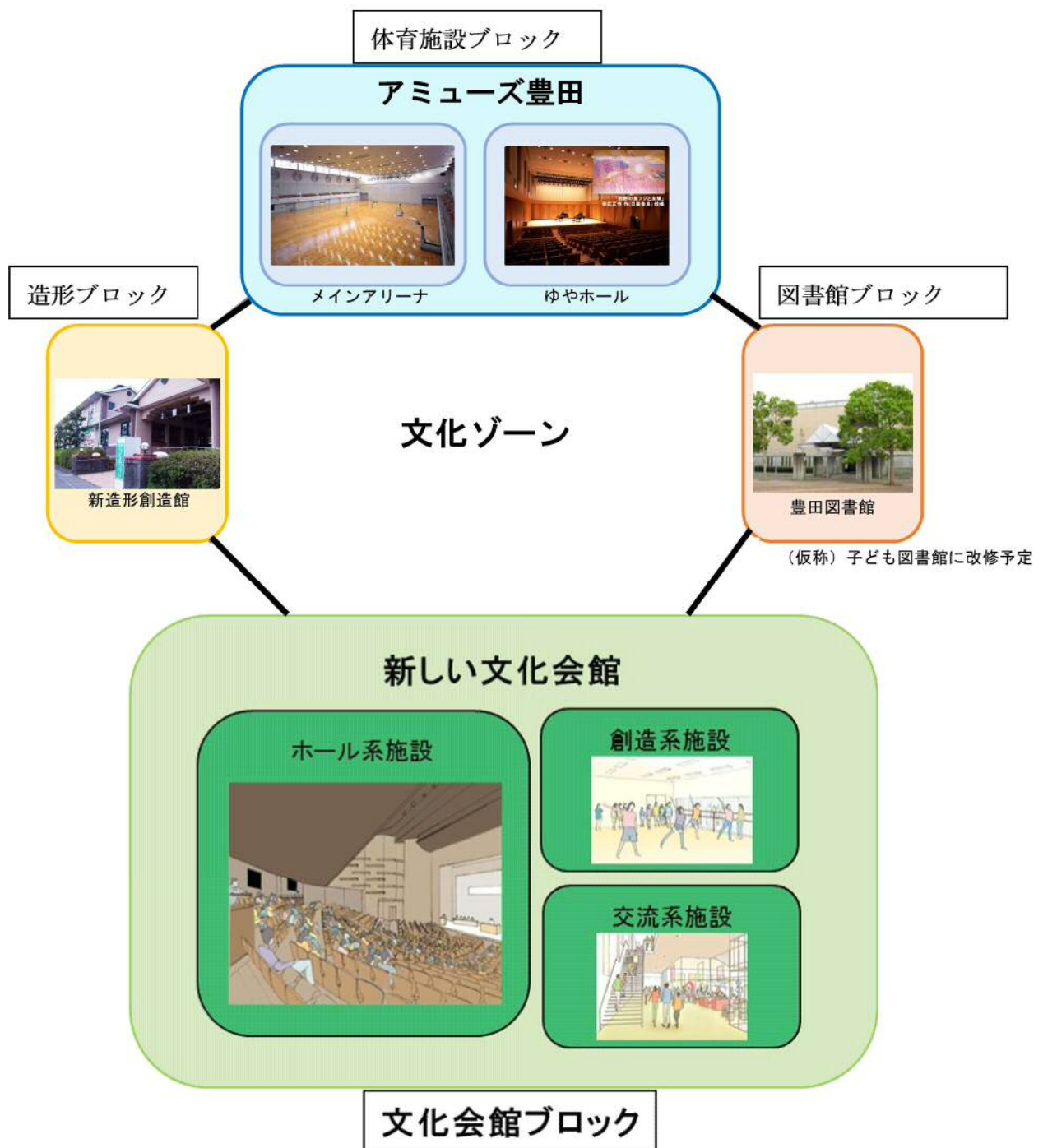
新しい文化会館の基本構想における基本理念は次の機能により実現し具体化されます。



4. 新しい文化会館の機能構成と活動の繋がり

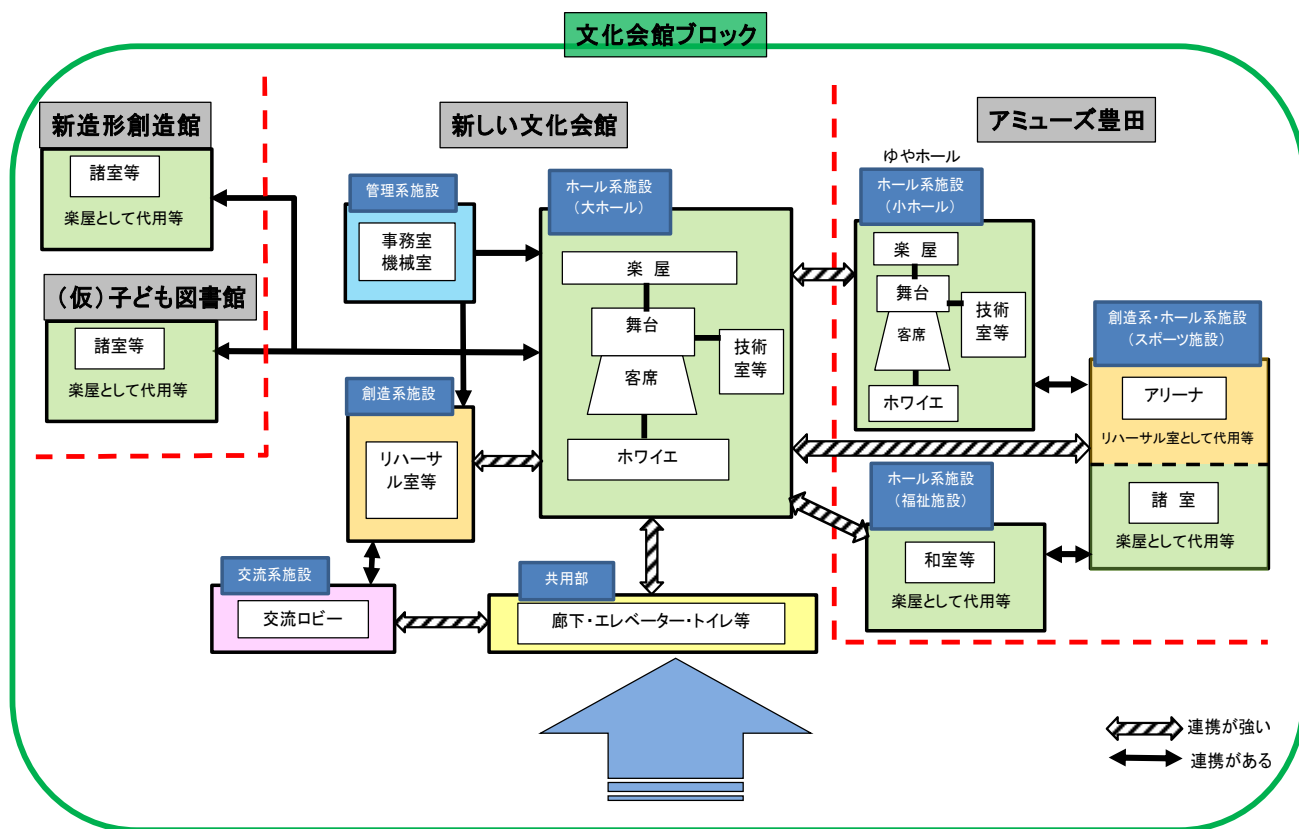
建設予定地には、各ブロックからなる施設があり、新しい文化会館が整備されることにより、各ブロックを繋ぐ「文化ゾーン」が形成され、多くの市民の多様な利用が期待されます。

(1)文化ゾーンの形成



(2)新しい文化会館の機能構成

新しい文化会館は「ホール系施設」、「創造系施設」、「交流系施設」、「管理機能」、「共用部」の5つのエリアで構成され、各エリアが連携し、アミューズ豊田を含め、文化会館ブロックとして施設全体で、その機能を十分に発揮するため、以下のような連携に配慮します。



(3)既存施設との機能連携

新しい文化会館と既存施設との間には、次のような施設と事業の連携が見込まれます。

施設間での連携

ゆやホールとの連携

新しい文化会館は、市内の文化の拠点施設であり多様な企画に対応するため、既存施設であるアミューズ豊田「ゆやホール」との連携、有効的な活用が見込まれます。

アミューズ豊田等との連携

現在の文化会館では出演者の多い、ダンスイベント、合唱や吹奏楽コンクール、市民の生涯学習活動などの催しの時には控室等が不足する事態が生じます。

このため、新しい文化会館は、アミューズ豊田等の諸室を控室等として使用するなど、施設間で連携し、相互に不足分を補うことが見込まれます。

事業を通じた連携

普段は、利用目的の異なる施設の集まりのため、施設ごとの事業活動となり、個々の特徴を活かした事業が中心となってきますが、全ての既存施設を取り込んだ文化芸術などの一体事業を企画することも可能となり、敷地面積約58,000 m²を活かした新しい賑わいの創出と活動の拠点となることが大いに期待されます。

■ 2章 新しい文化会館の施設概要

1. 敷地概要

場 所：磐田市上新屋、森岡地内
面 積：南側敷地：18,513.33 m²
北側敷地：39,482.00 m²（アミューズ豊田敷地）
合 計：57,995.33 m²

周辺道路：東 側 加 茂 森 岡 線：幅員 6.6m
加 茂 3 2 号 線：幅員

5.2m

西 側 東平松勾坂中幹線：幅員 18.0m
南 側 森 岡 3 号 線：幅員 6.4m
その他 上新屋 21 号 線：幅員 12.0m
森 岡 2 号 線：幅員 4.0m
森 岡 4 号 線：幅員 4.6m

周辺環境

計画地内には、大・小のアリーナ等を備えた体育施設及び326名収容の小ホール機能等を備えたアミューズ豊田、（仮称）子ども図書館として改修予定の豊田図書館、計画地の西側にはガラスと金属造形の施設にレストランを併設した新造形創造館、国道1号の南側には、磐田市豊田支所等の公共施設が立地しており、磐田市都市計画マスタープランでは「都市拠点」として位置づけています。

新しい文化会館の建設予定地は、様々な用途の施設が集まる新しい文化の拠点として「市民の交流・賑わい創出」が期待されます。

また、国道1号森岡インターや市を南北に縦断する幹線道路に接しており、車でのアクセスの利便性もよいと考えます。

航空写真



アミューズ豊田



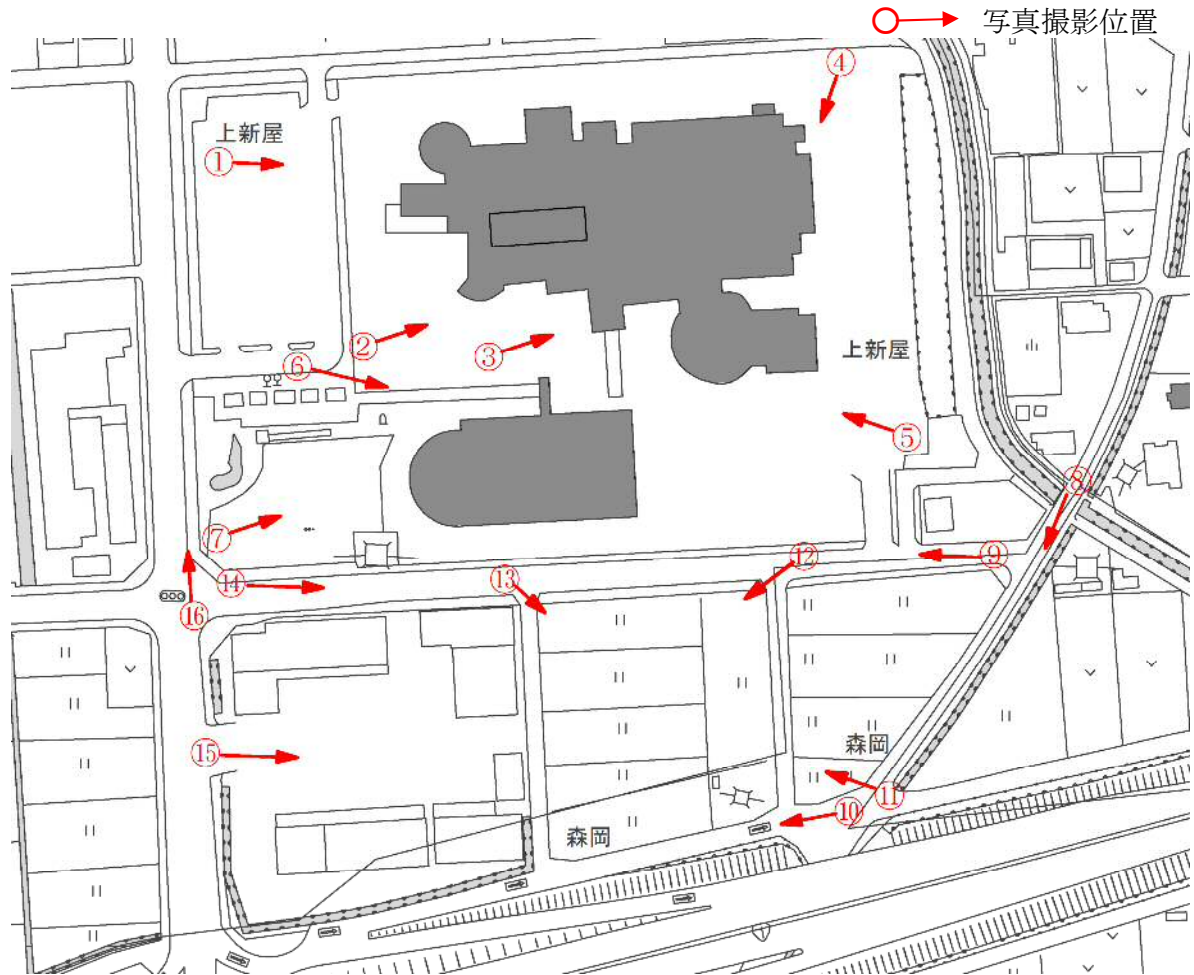
豊田図書館



新造形創造館

現況写真

写真撮影場所



現状写真

撮影位置①



撮影位置②



撮影位置③



撮影位置④



撮影位置⑤



撮影位置⑥



撮影位置⑦



撮影位置⑧



撮影位置⑨



撮影位置⑩



撮影位置⑪



撮影位置⑫



撮影位置⑬



撮影位置⑭



撮影位置⑮



撮影位置⑯



2. 施設整備の考え方

新しい文化会館の建設に当たっては、現在の磐田市民文化会館の利用状況を踏まえ、文化施設としての機能を重視し、次に示す項目に配慮します。

① 既存施設との機能連携

敷地一体を文化ゾーンとして捉え、既存施設の効率的な活用を考慮し、連携した運用により賑わい創出が可能となる整備を計画します。

② 駐車場整備

車での移動が市民の主な交通手段となっている現状を踏まえ、十分な駐車場の確保は大きな課題です。文化ゾーンとして安全で利用しやすい駐車場を整備します。

③ 動線について

文化ゾーンの有効的な利用が可能となるよう、来場者、出演者及び搬出入の3つの動線が基本的には独立し、相互に干渉しあわない計画とします。

④ 環境への配慮

省エネルギー、省資源に努めるとともに、再生可能エネルギーの活用も検討し、環境への負荷に配慮した計画とします。

⑤ 機能性とランニングコスト低減への配慮

機能性を重視するとともに、ランニングコストの低減が図れ、維持管理や修繕が容易な施設整備を目指します。

⑥ 防災機能

アミューズ豊田は市の指定避難所に位置付けられています。集客施設である文化会館は、災害時には指定避難所を補完する防災施設として最低限の設備機能を維持・稼働させることができる防災対策が必要です。

⑦ 財源

文化会館の建設や維持管理等には費用を要することから、市の財源に大きな負担をかけない手法を検討します。

3. 新しい文化会館の配置計画

(1) 配置計画上の法的条件

- ・敷地面積：南側敷地 18,513.33 m²、
北側敷地（アミューズ豊田敷地） 39,482.00 m²、
合計 57,995.33 m²
- ・北側敷地の既存施設：豊田図書館、アミューズ豊田（アリーナ、柔道場、
ゆやホール、和室等）
- ・区域指定・区分：都市計画区域／市街化調整区域
- ・容積率の限度：200%
- ・建蔽率の限度：60%（角地70%）
- ・防火地域：指定なし（22条指定区域）
- ・その他の地域・地区：なし
- ・高さの限度：なし
- ・日影規制：4時間／2.5時間（測定面：平均地盤面+4m）
- ・道路斜線制限：適用範囲20m、勾配1.5
- ・隣地斜線制限：立ち上がり31m、勾配2.5
- ・北側斜線制限：なし
- ・階数制限：なし
- ・特殊建築物の構造制限：構造制限なし

※その他の制限は特になし

(2) 配置計画

磐田市文化会館建設検討委員会の第1次答申を受け、(仮称)磐田市文化会館基本構想では、建設位置はアミューズ豊田南側敷地としております。

文化ゾーン内での配置は、既存施設との連携、効率的な敷地運用の実現、円滑な動線及び事業費や工事期間に配慮した配置とします。

配置計画については、基本計画において配置を決定せず、設計時に専門的な意見を参考に配置を決定するものとします

■ 3章 新しい文化会館の施設構成

1. 新しい文化会館の施設構成

新しい文化会館の施設は、ホール系施設、創造系施設、交流系施設、管理系施設、共用部の5つの部門から構成し、全体面積を約7,000㎡程度と見込みます。

「文化会館の施設構成」

	主な施設内容	用 途
ホール系施設 (大ホール)	客席 舞台 ホワイエ 楽屋 搬入口等 備品庫・楽器庫	おおむね1500席程度。 プロセニウム形式。多様な演目を行う。 ロビーと区別。入場後の待合スペース。 出演者の待機場所。大・中・小とも2室程度。 11t車2台が入れる、雨に濡れない作業空間。 舞台備品庫と湿度調整の効いた楽器庫。
創造系施設	リハーサル室 練習室	防音室、本番前の練習場、小公演に使用。 遮音室、合唱や吹奏楽の練習。
交流系施設	情報壁面 交流ロビー 多目的室	催事や事業活動を広報する場。 多目的に使える交流空間。 打ち合わせ・ワークショップ・楽屋。
管理系施設	管理事務室 舞台事務室 倉庫・書類庫 機械室・電気室 清掃員控室	会館全体の運営・管理。 舞台技術スタッフの事務室。
共用部	授乳室 共用廊下 エレベーター 共用トイレ	

2. 新しい文化会館の各施設概要

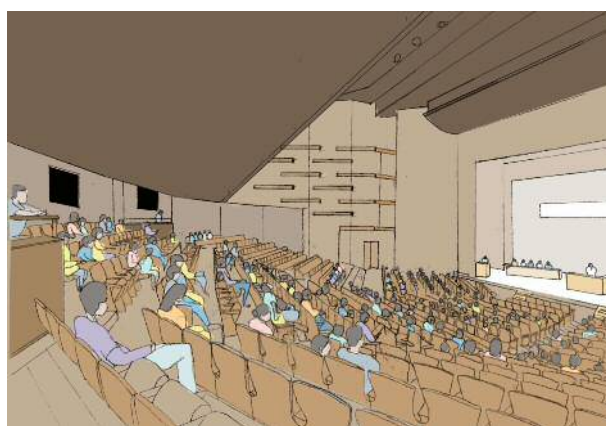
(1) ホール系施設

ホールは市民が身近に音楽やミュージカル、演劇、舞踊や伝統芸能など、様々な優れた文化芸術を鑑賞するとともに、市民による文化芸術活動の場、また発表の場として機能することが期待されています。このような文化芸術に使用するだけでなく、大規模な集会などにも利用します。

そのためホールは、様々な演出や利用の要請に応えることができる、プロから市民の利用までに配慮した舞台設備を備えた多機能型のホールとして計画します。

① 客席

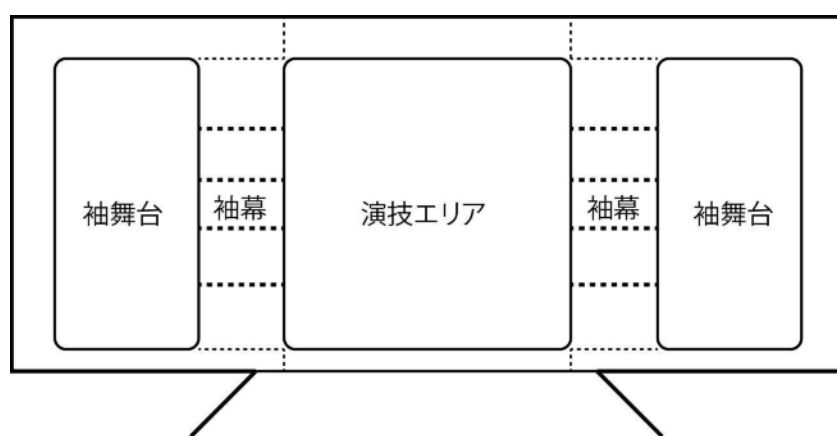
- 席数 : 車いす席を含めておおむね 1500 席程度とします。
- 階構成 : 主階席 1000 席程度＋バルコニー席^{※1}による 2 層構成とし、主階席だけで中ホール的な使い方ができる空間の仕様とします。館全体配置のバランス、視界条件、音響効果に支障のない空間構成とします。
- 親子室^{※2} : ホワイエから入り易く、舞台が見やすい位置に設けることとします。
- 座席サイズ : 1 席分のスペースは、今より広いサイズとします。
- 音響条件 : 演目に相応しい音響環境を確保します。



ホールイメージ

② 舞台

- 舞台形式 : プロセニウム型式^{※3}とします。
- 舞台開口 : 開口幅 14.5m (8間) ~18.2m(10間)程度として、必要に応じて、間口を制御できる機能を併せ持つ。
- 可動式音響反射板^{※4} : 迅速な設置・撤去が容易にでき、格納時に舞台構成の邪魔にならないこととします。
- オケ迫^{※5} : 設置について検討する。



舞台イメージ

③ ホワイエ^{※6}

- ホワイエ : ホール来館者が開演前や休憩時間などに交流の場所として快適な時間を過ごすことのできる空間とします。
- トイレ : 衛生工学会基準に依る便器数を備え、女性用の比率を多くしバランス良い配置とします。

④ 楽屋

- 室数 : 大・小楽屋をホールの規模に応じて適切に設置します。(大楽屋は可動間仕切りなどによる分割利用も想定します)
- 楽屋設備 : 楽屋トイレ、給湯スペース及びシャワー室の設置を検討します。

⑤ 搬入口等

- 搬入デッキ : 雨天時の搬出入環境と、舞台への大道具搬入動線(幅と高さ)に配慮します。
- 舞台備品庫 : 舞台への動線に配慮します。
- 楽器庫 : フルコンサートピアノ2台が置ける広さと、湿度管理機能を設けます。

(2) 創造系施設

市民が文化芸術の創造活動を行う場や日常的な練習や技術の取得を支援するための機能を備えた諸室を計画します。

- リハーサル室 : 防音機能を備えた、本番公演のリハーサルが可能な十分な広さと、小公演としての使用可能な形式を検討します。
- 練習室 : 設置する場合は1室とし、室内を2室程度に分割使用が可能な部屋を検討します。

(3) 交流系施設

広く市民が集い、日常的に利用できる空間として計画します。文化交流・世代間交流など、様々なコミュニケーションを図ることや市民が気軽に訪れることができる場所とします。

- 交流ロビー : 会館未使用時においても、誰もが自由に利用できる、明るく開けた空間とします。

(4) 管理系施設

文化会館を、円滑にかつ快適、安全に運営していくため、施設を常時管理する諸室が必要となります。管理事務室では、施設の利用申し込み事務手続きなどを行います。

(5) 共用部

施設内をスムーズに移動するための廊下、階段、エレベーターと共用のトイレを計画します。

※用語解説

1 主階席・バルコニー席	1階席を主階席、2階席をバルコニー席と呼ぶ。
2 親子室	ガラス越しにステージを見ることのできる、防音された部屋。スピーカーからホールの音を聞く。
3 プロセニウム形式	舞台と客席を(プロセニウム)によって明確に区画する舞台形式。
4 可動式音響反射板	劇場型の多目的ホールで室内楽やオーケストラのコンサートを行う時に仮設して使用される装置。一般的に、背面、天井面、側壁面に設置してコンサートホールの音響条件に近づける設備。「走行式」「昇降式」「吊込式」などがある。
5 オケ迫	オペラやミュージカルなどで、舞台と客席の間でオーケストラが演奏するための専用のピットを指す。「迫」とは、台床の一部を動力により昇降させ、床の高さを変化させ、舞台セットや出演者を奈落から舞台に昇降させるための舞台床機構。
6 ホワイエ	館内で誰でも入れる部分を「ロビー」、チケットを持っている方が入れる部分を「ホワイエ」という形で呼び方を区別している。

■ 4章 新しい文化会館建設のスケジュール

1. 新しい文化会館建設までのスケジュール

新しい文化会館の整備スケジュールを検討します。

整備スケジュール（案）

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
敷地	用地取得				
施設整備	基本・実施設計	建設工事		竣工	開館
その他				開館準備	